

|      |                      |       |       |    |      |               |             |     |
|------|----------------------|-------|-------|----|------|---------------|-------------|-----|
| ジャンル | 子ども・教育               | 日本語学習 | 医療・福祉 | 労働 | 災害対策 | 意識啓発<br>地域づくり | 推進体制の<br>整備 | その他 |
| 事業名  | 医療通訳ボランティア通訳広域連携促進事業 |       |       |    |      |               |             |     |
| 団体名  | 群馬県                  |       |       |    |      |               |             |     |

\*\*\*\*\* 事業のポイント \*\*\*\*\*

様々な広域連携事業を実施している、北関東埼玉広域圏で医療通訳の将来的な広域連携を目指した協働事業を実施した。各県で養成している医療通訳ボランティア等が養成講座終了後の自己学習やスキルアップのための適当な教材が十分ではなかった。そこで、広域圏において、ボランティアが各自で学習できるための共通のテキスト及び補助教材（eラーニングシステムの活用）を作成し、広域圏内ボランティアのスキルアップの一助とし全体のレベルアップを図り、将来の医療通訳の広域連携に向けた第一歩とする。

|            |                       |      |           |
|------------|-----------------------|------|-----------|
| 助成年度<br>区分 | 平成 22 年度地域国際化施策特別支援事業 | 事業総額 | 2, 205 千円 |
|------------|-----------------------|------|-----------|

事業の内容、成果等

●事業実施の背景

茨城、栃木、群馬、埼玉の広域連携事業は平成 18 年から取り組んでおり、平成 21 年 8 月に国土形成計画首都圏広域地方計画のプロジェクトとして「北関東多文化共生地域づくりプロジェクト」が採択され、そのフレームで北関東圏として連携事業を実施している。

通訳ボランティアについては、各県や地域国際化協会が様々な形でボランティア育成事業を行っており、地域の実情にあわせた方法で利活用されている。地域における医療サービスの提供において、言葉・コミュニケーションの問題は深刻な課題であり、感染症や診察の遅れによる医療費の高騰等地域全体の福祉サービスの低下につながることも想定される等、医療通訳ボランティアは外国人のみならず医療機関等に対しても大きな役割を果たしている。

通訳は高度な専門用語や医療知識が要求される業務であり、少数言語の場合、まだ初心者であっても、通訳できるというだけで、深刻な病気の告知や手術や輸血の説明などの非常に難易度の高い通訳をせざるをえない場面に遭遇することもある。通訳の役割が子どもの場合や、ことばが少し話せる「知人・家族」の場合には、専門性の高い翻訳を正確に行えない危険性も大きい。外国人の受診は、このようにさまざまな問題をはらんでいる。

各県や地域国際化協会ではボランティアに対しても特別な研修や講習を工夫して行い、「医療通訳ボランティア」の養成を行っている。本フレームでは広域連携の一つの方向性として、医療通訳ボランティアの広域連携について検討を行った。ボランティアの数の増加による対応の迅速化や少数言語への対応可能性の増加、県境における対応、等様々な可能性が期待されたが、一方で、各県ごとに違う医療通訳に係るボランティアの制度や仕組みへの対応、ボランティアのレベルの共通化等さまざまな課題も挙げられた。



将来の広域連携事業の実施に向け、各県の現状や課題を把握し、課題解決に向けた連携事業の第一歩として、通訳ボランティアのレベルの均一化とレベルアップ、ボランティア自己研鑽のための教材の研究・提供、ボランティアの悩みなどをうまく共有できる仕組みづくり等から開始した。

●実施内容

- 1 各県ボランティアのスキルアップ及びモチベーション維持のための広域圏共通の自宅学習教材を



## 多文化共生交流サイト

ログイン  
gunma | ログアウト

メニュー

トップページ

- ▶ 災害多言語情報
- ▶ 多言語早見表
- ▶ 災害翻訳通訳ボランティア
- ▶ 医療通訳eラーニングとは
- ▶ 医療通訳ボランティア(いりょうつうやく)
  - ▼ eラーニング(いーらーにんぐ)
    - ・ 講師紹介(こうししょうかい)
    - ・ 医療通訳倫理規定(りんりきぎてい)
    - ・ 勉強(べんきょう)の仕方(しかた)
    - ▶ 医学知識(しやくちしき)
    - ▶ ビデオ教材(びでおきょうざい)
    - ▼ ロールプレイ学習(かくしゅう)
      - ・ 会話集(かいわしゅう)1
      - ・ 会話集(かいわしゅう)2
      - ・ 会話集(かいわしゅう)3
      - ・ 会話集(かいわしゅう)4
      - ・ 会話集(かいわしゅう)5
      - ・ 会話集(かいわしゅう)6

お知らせ

### 病院での会話集

【ぜんそく】

患者/ 去年の秋頃からゼーゼーしはじめました。

医師/ きっかけに心当たりはありますか？

患者/ ちょうどその頃、かぜをひきました。その頃から、呼吸が苦しくなりました。

医師/ 現在の状態はどうですか？

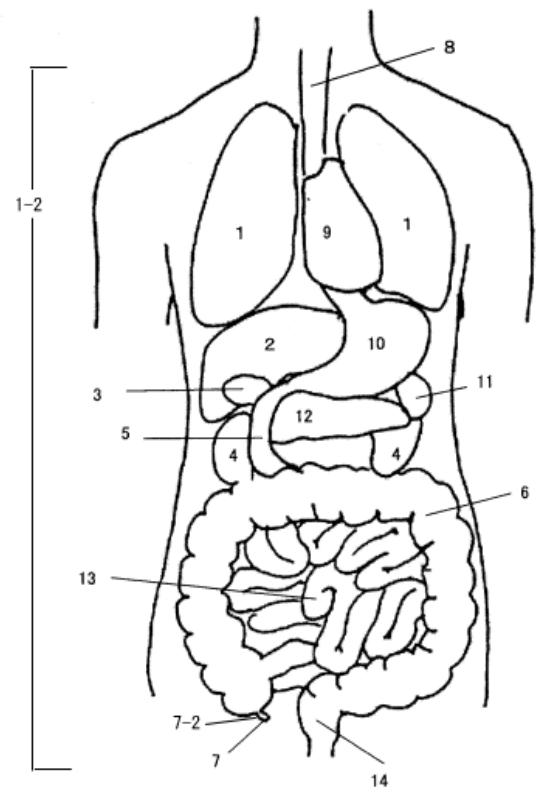
患者/ 夜中になると、発作が起きます。息苦しくて、眠れません。

医師/ 喘息の可能性が高いと思います。過去にアレルギー性の病気を経験しましたか？

医師の会話と患者の会話のダイアログ風に仕立てる。すべて日本語表記であり、ルビを付している。ボランティアはそれぞれの外国語でどのように伝えるかを研究できる。

## 医療用語集の例：インドネシア語

| いりょうようごしゅう からだのめいしょう |                     |                      |
|----------------------|---------------------|----------------------|
| 医療用語集 体の名称《インドネシア語》  |                     |                      |
| NO                   | (からだのめいしょう)<br>体の名称 | インドネシア語              |
| 1                    | (はい) 肺              | paru-paru            |
| 1-2                  | (どう) 胴              | badan                |
| 2                    | (かんぞう) 肝臓           | hati, limpa          |
| 3                    | (たんのう) 胆嚢           | kantung, pundi-pundi |
| 4                    | (しんぞう) 腎臓           | ginjal               |
| 5                    | (しゅうにしちょう) 十二指腸     | duodenum             |
| 6                    | (だいちょう) 大腸          | usus besar           |
| 7                    | (ちゅうすい) 虫垂          | lampiran             |
| 7-2                  | (もうちょう) 盲腸          | usus buntu           |
| 8                    | (しょくどう) 食道          | pembuluh makan       |
| 9                    | (しんぞう) 心臓           | jantung              |
| 10                   | (い) 胃               | lambung              |



それぞれ体の部位が外国語により表記されている。必要によりダウンロードが可能で携帯用の自分専用の医療用語集も作成できる。依頼された分野の事前学習等にも活用が可能である

## 3 eラーニングシステム活用のための講習会の実施

ボランティアによる本システムの利活用促進に向け利用法の講習会を実施した。医療通訳ボランティア養成講座を修了したボランティア向けの講習会であり、課題として提案された広域にわたりボランティア向けのスキルアップのための教材の提供が可能となった。



eラーニングシステムの研修風景（於群馬県前橋市）

## ● 事業の成果

医療通訳ボランティアへの入門講座など開催されているが、多くは短期間での講座のため、医学知識の習得までには至っていないのが現状である。また、医療通訳者が医学知識の習得を望んでも、それを体系的に学習する機会がないのが現状である。将来の連携を目指した第一歩として北関東広域圏（茨城・栃木・群馬・埼玉）の各県で養成・登録している通訳ボランティアや語学サポーターに対して、彼らのスキルアップ及びレベルの共通指標化のため、自己学習支援に向けた教材を作成すると共に、これを補助するシステムとしてeラーニングシステムを構築した。

### ○ 教材コンテンツ

#### ① 医学用語集及び問診対訳表

（英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハンデル、ベトナム語、フィリピーノ語、インドネシア語、タイ語を含む言語で日本語の対訳付き）

#### ② 健康ミニ情報（56病名）

#### ③ 医療用単語表（10ヶ国語）

#### ④ 多言語問診票（32ヶ国語）

### ○ eラーニングコンテンツ

#### 1. 医療通訳者としての心構え（倫理規定）

#### 2. 学習の進め方

#### ① 教材の中の医療用単語のエクセル表をダウンロード

#### ② 必要に応じ単語表に単語を追加

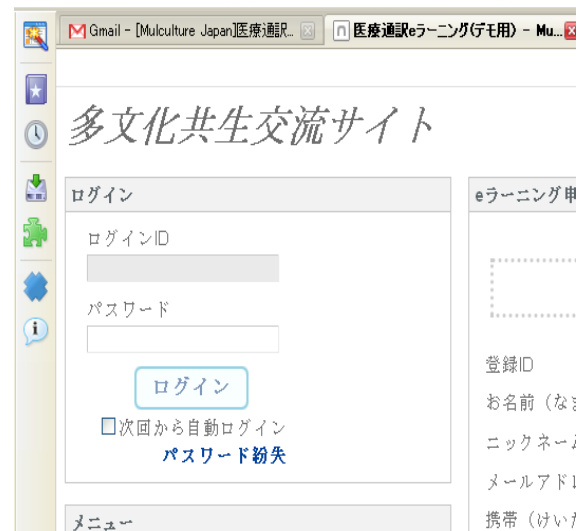
#### ③ 日本語が読めて理解できる⇒医学知識健康ミニ情報により医学基礎知識の学習

#### ④ 日本語が苦手⇒ビデオ教材

#### ⑤ ③か④を学習後ロールプレイ学習

#### 3. システム機能

オープンソース・ソフトウェア（NetCommons）により作成し、サイトへのアクセスはパスワードで管理できるものとした。



eラーニングのログイン画面

平成23年10月末日現在では26言語、400名（言語により重複あり）を越える登録者があった。

また、本システムの内容につき、第三者の意見を聞くため、2011年度の第8回日本e-Learning大賞

に応募したところ、奨励賞を受賞した。日本 e-Learning 大賞とは、企業・自治体・団体における e ラーニングを用いた生産コストダウン・生産性向上・業務改革、また学校・個人においては新しい学習の可能性・学力向上に役立つさまざまなコンテンツ・サービス、ならびにソリューションを表彰する賞で、第 8 回目を迎える今年も、経済産業省、文部科学省、総務省、厚生労働省の後援を受け、e-Learning Awards フォーラム実行委員会が主催している。今後は右のロゴの使用が許される。



## ● 工夫した点

この教材は、茨城、栃木、埼玉、群馬にわたる北関東広域圏内の医療通訳ボランティアの将来の連携を見据えた教材であり、自己学習のコンテンツの共通化を行ったと共に、ボランティアとはいえ医療通訳という業務の重要性から、携わる者の心構えを「倫理規定」として提案した。このコンテンツ上の「倫理規定」については、医療通訳士協議会が策定している倫理規定を活用している。

教材作成にあたり、これまでに我々が取り組んできた下記の知見や関連情報を活用して教材作成に取り組んだ。

- 1) 群馬大学酒巻研究室・問診票
- 2) (財) 日本国際協力センター・多言語問診票翻訳
- 3) 医療通訳士協議会 (JAMI)・医療通訳士倫理規定
- 4) 国際医療通訳協議会 (IMIA)・医療通訳システム

本教材を活用することにより、各県が養成した多言語の医療通訳ボランティアが共通のコンテンツで学習し、必要に応じて遠隔での医療通訳のシュミレーションや e ラーニングシステムによるレベルの確認やスキルのアップを目指しているが、各自が学習し誤答や解答欄未記入等、間違いやすいテクニカルタームや難しい語句等をバンク化し、データを蓄積することにより、例えば用語集のような、その部分の学習支援ができるようなシステムも構築した。e ラーニングシステムの利用が増加し、学習者からのフィードバックの数が増えてくると機能してくると思われる。

## ● 今後の展望

教材のコンテンツもシステムからのダウンロードとしたため、登録希望者であれば、北関東広域圏の医療通訳ボランティアは利用が可能となった。ポータルサイトは誰もが閲覧可能なものとし、ボランティアが参加可能なサイト、管理者権限で対応できるサイト等はパスワードで管理し、広域圏の情報提供も可能なサイトとした。コンテンツについては今後事業実施の中で参加ボランティアや関係者からの意見を参考にしつつ、更新をしていきたい。

地域のグローバル化にともない、北関東圏にも多くの外国人が居住しているが、彼らの多くは地域に住む生活者として日本人住民と同様な生活を送っている。病気や怪我などのため、治療の必要が生じたり、それらを防ぐため対応が迫られたりすることも多くなってきており、そこでは、医師、看護師、助産師、保健師、薬剤師、病院職員、その他の関係者と外国人（患者ないしその家族）との間のコミュニケーションが図られなければならない。医療通訳翻訳者には、医学や保健等について様々な知識が要求される。

医療通訳者の育成には、経験の蓄積が重要であり、一人前の通訳者になるまでに時間がかかる。本教材は各県や地域国際化協会等による医療通訳ボランティア・サポーター等養成講座を修了した方々を対象と想定している。できるだけ現場で経験を積みながら本教材で補完していただければ一層効果的に学習が行えるものと思う。

